

# 第 1 学 年 国 語 科 学 習 指 導 案

## 1 単元 「心の歩み 手紙を書こう～伝え方を考える～」

### 2 指導観

- 電子機器等への活用が、児童の学習意欲を高め、手紙の書き方を学ぶ際の負担を軽減する。また、手紙の書き方を学ぶ際の負担を軽減する。また、手紙の書き方を学ぶ際の負担を軽減する。
- 国語への関心・意欲・態度
- 話す・聞く能力
- 書く能力
- 読む能力
- 言語についての知識・理解・技能
- 3つの授業改善のポイントの視点からは、学習過程の要所で「考えを書くこと」を大切にすといふポイントをふまえて、まず手紙の利便性や必要性について、自分の考えを文章で書かせ、また、挙げられた手紙の例を参考に、自分自身で時候のあいさつを書くことを考えさせ、手紙を書く際、その基本書式を守りながらも、自分なりの工夫をすることが大切だと気づかせることも必要である。
- 今回の学習を通して、自分の思いを文章で表現することの楽しさに気づかせ、「書く」ことへの興味・関心を高め、より一層の学力向上を図りたい。

### 3 単元目標

観 点	評 価 規 準
国語への 関心・意欲・態度	○手紙の基本書式に関心をもち、進んで学習に取り組もうとしている。 ○手紙の特徴を知り、相手や目的に応じた手紙の書き方を考えようとしている。
話す・聞く能力	
書く能力	○基本書式に沿った手紙の利便性や必要性について、自分の考えを書くことができる。 ○定型文を参考に、自分なりの時候のあいさつを考えて書くことができる。 ○実際に相手を決め、自分の伝えたい内容を明確にして手紙の下書きを書くことができる。 ○手紙の基本書式や必要事項などを押さえ、相手に合った手紙を書くことができる。
読む能力	
言語についての 知識・理解・技能	○書き言葉の特徴を踏まえた適切な語句を使っている。

- 4 単元の指導・評価計画 単元の配当時間：3時間
- ※「指導上の留意点」における①②③：3つの授業改善のポイントに係る手だて
- ①「教えること」と「学ぶこと」を区別した手だて
- ②学習過程の要所で「考えを書くこと」を大切にしたい手だて
- ③学習したこと「まとめ」と「ふり返り」を徹底したい手だて
- ：家庭学習の課題を生かした手だて ○：一般的な手だて
- ※「評価規準（評価方法）」における
- 関：国語への関心・意欲・態度 話：話す・聞く能力 書：書く能力
- 読：読む能力 言：言語についての知識・理解・技能
- ※主な指導事項：1年Bウ

次時	学習活動・内容	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1 本時	○手紙の基本書式を知り、自分の場合のあいさつを考える。	○手紙は自分の気持ちや用件を相手に伝える有効な手段であることを押さえる。 ②具体的な手紙の例を示し、形式を整えた手紙の利便性や必要性について、自分の考えを書かせる。 ①手紙には基本書式があることと理解させ、自分も、最も大切な相手には、自分の気持ちを配ることであることを認識させる。 ②手紙を書く相手を決め、定型文を参考にしないが、自分なりの時候のあいさつを書かせる。 ③本時のめあてに対する自己評価をさせ、目標が達成できているかどうかを確認させる。	関：手紙の基本書式に関心をもち、進んで学習に取り組もうとしている。 書：（様式） 基本書式に沿った手紙の利便性や必要性について、自分の考えを（プリント分析） 書：いくとができる。（定型文を参考に、自分なりの時候のあいさつをきく） （プリント分析）
2	○伝えたい内容を明確にし、手紙の下書きを書く。	○前時で学習した手紙の基本書式をふり返る。 ○文章にする前に、まず伝えたい内容を箇条書きで思い浮かべ、列挙させる。 ②伝えたい内容をわかりやすくまとめ、自分の考えをまとめる。 ③本時のめあてに対する自己評価をさせ、目標が達成できているかどうかを確認させる。	関：手紙の特徴を知り、相手の目的に合った手紙の書き方を考えようとしている。 書：（様式） 実際に相手を決め、自分なりの伝えたい内容を（プリント分析） 明確にし、手紙の下書きを書くことができる。
3	○基本書式を押さえ、相手に合った手紙を書く。	①手紙の基本書式をもう一度ふり返り、自分の書いた文章を推敲させる。 ○正しい書き言葉を使用しているか、注意を促す。 ○丁寧な文字で書いていくよう、注意を促す。 ●αノート（家庭学習ノート）の1日の振り返りをする欄にも、正しい書き言葉を丁寧な文字で書いていくよう助言する。 ③本時のめあてに対する自己評価をさせ、目標が達成できているかどうかを確認させる。	書：手紙の基本書式や必要事項を押さえ、相手に合った手紙を書くことができる。（プリント分析） 言：書きた適切な語句を踏まえて（プリント分析）

5 本時 平成22年9月 日（曜日）第 校時 計画3時間中の1 第1学年教室にて

- (1) 本時の主眼
- 基本書式に沿った手紙の利便性や必要性について、自分の考えを書くことができる。（書く能力）
  - 定型文を参考に、自分なりの時候のあいさつを考えて書くことができる。（書く能力）
- (2) 本時の指導観
- 生徒は、小学校5年生で通信文、6年生で手紙の大まかな形式について学んでいる。本時は、手紙には基本書式があることを知り、その中の時候のあいさつを自分で考え、正しい書き言葉で文章化できるようになることがねらいである。そのためにも、手紙

